

造形「さがみ風っ子展」女子美アートミュージアム(JAM)会場に 「遠足プロジェクト」が参加しました

東日本大震災から1年半が経過しました。相模原市では被災地への復興支援に早くから取り組み、特に姉妹都市である大船渡市を中心に支援活動を続けています。今回の女川町と相模原市の造形「さがみ風っ子展」との交流活動もまた、被災地復興を願い、ささやかな支援活動になればと取り組みました。

遠足プロジェクト実践記録

造形「さがみ風っ子展」 女子美 JAM 会場

10月27日(土)～29日(月)

3日間、展示を行いました。特に、土日はたくさんの方で賑わっていました。子供連れの家族も多く見に来ていました。

アート作品でありながら、作品に自由に触れることができるのは鑑賞者にとってうれしいことのように、手にとってみたり、作品と遊んだりして楽しんでいました。



お気に入りのランドセル作品を選んで、遠足へ出発です。展示期間中は、女子美祭も行っており、展示や出店などで賑わっていました。

はじめは人に話しかけることに戸惑っていた中学生も、だんだんと自分から積極的に来場者に声をかけるようになりました。ランドセルが女川町からやってきたこと、カナダのアー



ワークショップ

10月27日(土)、28日(日)

相模原市内中学校の美術部の生徒が遠足をしました。午前・午後の2回と、27日は淵野辺会場にも行きました。

武谷さん・梶原さんからプロジェクトの経緯や、このワークショップの意図を説明してもらいました。ランドセルアートを通して人と人のコミュニケーションをつないでいくことについて中学生も理解しました。



チストが作った作品だということ等、熱心に説明をしていました。

会場が女子美ということもあり、学生たちは作品への関心も高く、中学生の話を真剣に聞きながら、会話を楽しんでいました。



ランドセルは、そのままシャトルバスで淵野辺会場へ。

淵野辺公園には、野外に2万点以上の小中学校の作品が展示されています。

ランドセルを背負った中学生たちは、作品を見に来ている子供たちに声をかけます。やがて作品を使って遊びが始まりました。時間が経つにつれ、中学生と作品がひとつとなっているようでした。

すべてのランドセルを背負って、女子美のキャンパスを広範囲にわたって遠足も行いました。

誰でも一度は背負ったことがあるランドセル。だからこそ愛着があり、人になじんでいるのだと感じます。

被災地の復興を願いながら、人とのふれあいを深めた2日間でした。



中学生の感想より

- ・久しぶりにランドセルを背負ってとても楽しかったです。ランドセルで作品ができていてすごいと思いました。
- ・ランドセルプロジェクトは初めての体験で、とてもよい経験になりました。被災地の1日でも早い復興を願っています。
- ・最初は恥ずかしかったけど、知らない人たちと関わり、話すことができて楽しかったです。
- ・いろいろな人とコミュニケーションを取れたのでよかったです。
- ・どの作品も工夫が凝らされていてすごかった。ユニークなしかけのものもあり、紹介していて楽しかったです。
- ・まさか自分が作品と一緒にあって作品の説明をするなんて思いませんでした。でも、やってみると思っていた以上に作品を理解することができました。
- ・ノーバディーというキャラクターの作品を見て、とても洗われた気持ちになりました。いろいろなアイデアがあってよかったです。また、ノーバディーと会いたいです。

トークショー

10月29日(月) 女子美 JAMにて
武谷さん、梶原さん、小林校長先生はじめ
相模原市の小中学校の先生方、女子美学生
が参加して、トークショーを行いました。

今の女川町の現状と、今回のプロジェクトの
様子、そしてこれからの被災地と相模原とのつ
ながりについて話合いました。



○女子美 JAM には、がんばれ東日本という思いを込めて作った、巨大鯉のぼりならぬ鯉のぼりも展示され、人々の復興と海に魚が戻ってくることを願う気持ちを、作品にしています。

○まず「現地に行ってみること」が必要。ぜひ現地に
来てもらいたい。

○被災地では、子どもたちの遊ぶところもなく、新しいも
のを作り出すことはなかなかむずかしいのが現状です。

○女川町に、アートをスペースをつくっていきたい。

○この、プロジェクトを広げていくことで、震災を風化させ
ず、人と人がつながりをもっていくことへのきっかけになってほしい。

○今回のプロジェクトで作品を通じ、いろんな人たちと関わることができました。

○相模原市、女川町、トロントと、このようなつながりができたことも、大事なことです。

○造形さがみ「風っ子展」は、作品を通じて発信できる場所でもあります。地域と人とのネット
ワークを広げ、今後も発展を続けていきたいと考えます。

○作品の持つ力で、これからもいろいろな地域とつながり、人の輪を広げていければと思
います。



その後作品は、場所を移し、相模原
の桜台小学校にも4日間展示されまし
た。

遠足プロジェクトが風っ子展に来ていただいたことで貴重な体験となりました。
武谷さん、梶原さん本当にありがとうございました！！